

アジアから世界へ、そして未来へ〈2020〉

JDBA副理事長 長谷川 満也



日本の文化・シングルボールドッジを国際舞台に

～新種目マルチボールへの挑戦。シングルボール種目のワールドカップ採用を目指して

まず、われわれにとって新種目であるWDA（世界協会：加盟国約50カ国）のマルチボールゲームの概要を説明しましょう。JDBAは2019年3月に正式加盟しました。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、世界のドッジボールはマルチボール（5ボール）ゲームが主流です。インフィールドプレイヤー6名対6名で、この他にアウトフィールドに転がるボールを拾ってインフィールドプレイヤーに渡す「レトリバー」といわれる役割を担う選手が2～4名配置されます（人数は大会要項による）。コートは17m×8m。外野の概念はありません。

センターラインにボールを5個並べて、バックラインに並んだ選手たちが主審の合図でボールを取り合い（＝ラッシュ）、ゲームスタート。ボールは少し柔らかめの布製ハンドボールといった感じです。両チームが正対し、フェイントを掛けつつボールをぶつけ合います。アタックが成功すればアウトになった選手はコート外に出ます。ボールを保持している選手は、そのボールでアタックを防御することができます。アタックボールを保持しているボールで弾くとセーフとなります。このゲームの醍醐味はアタックのキャッチです。アタックをキャッチすると投球した選手がアウトになり、なおかつキャッチした側の選手1名がインフィールドに復帰することができます。

試合時間は前・後半それぞれ15分で、3分1セットマッチを15分の中で数セット行い、セットごとに残りフィールド選手が多いほうが勝ちとなります。各セット勝ち2点・引き分け1点として、前・後半の合計得点で勝敗を決めます。ボールが5個で最初は戸惑いますが、ボールの流れは縦1本、ルールはJDBAルールより簡素です。競技者対象は主に0-13で、日本でいうところの社会人中心であり、アタックあるいはキャッチの非常に分かりやすいスリリングなプレイスタイルで、エンターテインメント性の高い種目です。2016マンチェスター、2018ニューヨークで既に2回のワールドカップが開催されており、イングランドをはじめとしたヨーロッパ勢とマレーシア、オーストラリアが強豪国の位置付けとなります。

これに対してシングルボール種目は主にアジア4カ国（日本、韓国、台湾、香港）でのみ共通ルールで実施されており、ご存じのとおりU-12（小学生）を中心に規律性、ち密さ、360度全方向対応を要求される競技構成となっています。



まず相手を理解。マルチを受け入れ相乗効果を生み出す。そしてシングルを表舞台に

さて、ここからが本題です。シングルボールは日本各地のさまざまなドッジ文化をJDBAルールの下、競技ドッジとして統一されたものとし、約30年かけて現在の姿があります。これに対してマルチボールは、シングルボールの生い立ちと比べて日本での発祥は真逆であり、3年ほど前に「日本も一緒にワールドカップに挑戦、オリンピック採用を目指そう!」と海外から突然降ってきたのです。

シングルボールのシニア代表選手の力を借り、2018ワールドカップニューヨーク大会の予選を兼ねた2017アジアドッジボールチャンピオンシップマレーシア大会に急きょ参加。惜しくもニューヨーク大会本選への出場はなりませんでした。その戦いぶりを評価されて招待枠リーグへの参加となりました。結果は前回の本紙面での報告のとおり、ミックスカテゴリで見事優勝に輝き、会場となったあのマディソンスクエアガーデンに日の丸が翻ったのでした。

シングルボールドッジをアジアや世界に認知してもらうには、子どもの頃から慣れ親しんだシングルボールによって培われたその基礎力（競技力、審判技術、大会運営能力）を遺憾なく発揮して、マルチ種目でも日本のドッジ力を海外で示し、競技で世界ランク上位となって日本の存在価値と認知度を高めることがメインテーマと考えます。ドッジの世界標準はマルチボールゲームです。日本のドッジボール文化を決して否定するものではありませんが、シングルボール競技は実際、極東の数カ国のみで行われているだけで、ガラパゴス化は否定できません。海外と交流するにはマルチ種目対応が不可欠なのです。

D-1登録維持も苦しい減少傾向が懸念される中、マルチ&海外に目を向けることに関して否定的な意見も確かにあるでしょう。しかしながら、スポーツ協会加盟団体として必ず問われるのが国際対応という状況。何かしらの答えを持ち合わせるべきと考えます。マルチ種目の普及は「新種目の追加」と捉えます。拡大が停滞する現在の国内ドッジ事情。これを打破する可能性を秘めていると感じる昨今です。

昨年の2019アジアドッジボールチャンピオンシップ香港大会を戦い終えて、シングルボールで培われた基本動作や俊敏性とも相まって、明確な強化により世界一を取れる可能性が極めて高いと実感しました。また選手のみならず審判員も、JDBAルールで磨かれた技量を持つれば、国際舞台で主体性を発揮できる地位を築くことが可能です。そして、全国大会の運営能力を持つれば、ここまでのアジア大会とワールドカップ開催国の運営状況を目の当たりにした今、将来的に日本がワールドカップのホスト国となりうる可能性と資格は十二分にありと断言できます。

世界の中のニッポン。ワールドカップ開催とオリンピック参画に向けて

既存団体のWDAは既にオリンピック採用に向けて具体的に動いており、国際スポーツ連盟機構（IOC国際オリンピック委員会の承認団体）に今期も資格更新・承認された団体です。WDAとADF（アジア連盟）がシングル種目をドッジボールと認め、JDBAの主張する「マルチとシングルの

同時推進」を理解・迎合している現状に乗って、日本が主体となってシングルボールの海外普及版ルール策定などの商材作成に取り組み、新たな「種目」として日本から輸出し、WDAとADFに普及展開することにより、近未来にシングル&マルチ種目のワールドカップを日本で開催する。そしてシングルはもちろん、マルチでも表彰台の主演となってアジアと世界の覇権を制す。

ゴールとしては、アジア諸国での日本を含めた膨大なシングルドッジボール競技人口を取り込み、世界全体のドッジボールのボリュームアップに寄与し、オリンピック採用の一翼を担う方向に向かうのがより現実的と考えます。日本のドッジキッズがシングル種目から、後にシニアのシングル・マルチ種目につながり、やがて彼らがオリンピックの入場行進で日の丸をつけて晴れやかに闊歩する姿を夢見て、国際対応を楽しみながら充実したものとしていきます。

アジアドッジボールチャンピオンシップ 2019 香港大会 兼 2020ワールドカップ アジアパシフィック予選から、2020ワールドカップ エジプト・カイロ大会へ

WDAへの正式加盟後、初の公式国際大会への参加。去る2019年10月26、27日にADF主催マルチボール種目の「アジアドッジボールチャンピオンシップ 香港大会」が、日本、韓国、台湾、香港、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、フィリピン、ブルネイ、パキスタンの10カ国が集い開催されました。

日本は男子・女子・ミックスの3カテゴリに参加。成田空港で選手・スタッフ（審判員7名は前日入り）の総勢約50名が結団式を実施し、必勝を誓ったのでした。初日に予選リーグが行われ、日本は男子2勝（1敗：マレーシア）、女子2勝（1分け：香港）、混合2勝（1敗：マレーシア）で、参加カテゴリ全てでリーグ戦2位。2日目のトーナメント戦は全カテゴリ準決勝へ進出。相手は全てオーストラリアで、いずれも惜敗。3位決定戦の相手は全て香港となり、男・女が勝利し3位に、混合は惜敗で4位という結果に終わりました。

指導委員会からのご報告

指導委員会委員長 岩見 喜市

11月30日（土）、JDBA主催、同指導委員会主管の「ドッジボール講演会 兼 公認指導者資格更新講習会」を、愛知県豊田市のスカイホール豊田で開催しました。講師には、愛知県協会理事長の野田裕司氏と日本スポーツ協会公認ドッジボール指導者（コーチ1）かつ愛知県協会指導副部長の石川真二氏をお迎えしました。

野田氏は、「ドッジボールの楽しさを広げたい」という思いを基に、子どもたちにドッジボールの楽しさを広める活動が愛知県協会理事長としての立場につながり、愛知県協会に「子どもたちが一番」と考える指導者が多いことが現在の競技者・指導者・チーム数の多さにつながり、そしてキーワード「ドッジボールを知らない保護者をいかにドッジボールに興味を持たせるか」が人材の確保につながると話されました。

石川氏は、自分の子どもの成長とチーム指導者としての体験について、子どもの入団を機にドッジボールの世界に飛び込み、その後チーム運営側へ。保護者の賛同を得つつ、選手・指導者・保護者が「試合に勝ちたい」という三者一体の目標を決定。その全てが大会での結果へとつながり、チームがまとまって運営が円滑になったこと、また指導者としての立場を明確にする「指導者資格制度の重要性」についても話されました。参加者からは「今後、自分が進むべき方向性に見通しが持った」「有意義な講演会だった」との感想をいただきました。今後もブロック役員や加盟団体役員の方々に、先進的な取り組みや特色ある活動、協会運営の成功事例など、顕著な成果を収めている講話の機会を設けたいと考えます。そして、それらの事例を参考に、地域の実態に応じた協会運営方法や普及活動を構築していただきたいと思えます。また、指導者の皆さまには、チーム経営などで成果を収めている指導者による選手の自己肯定感、有用感を高める指導法や、チーム運営が健全かつ円滑に行える方法、保護者の協力体制の構築法などの講話の機会を設けますので、積極的に参加し、チームの発展のために参考にいただければと思います。

最後に、ドッジボールの輪がより広がるよう、お互いに手を取り合いながら共に未来に向かいましょう。



2019年全国大会結果

第28回 春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会



開催日:2019年3月24日
開催場所:三重県津市「サオリーナ」
優 勝:サザン'97
準優勝:SOLEO ROSSO
第3位:大谷ブルーウインズ 第3位:くろぼくガッツ エース

第6回 全日本女子総合選手権(D-1G)



開催日:2019年12月1日
開催場所:愛知県豊田市「スカイホール豊田」
優 勝:MITO GIRLS D・B
準優勝:ぶちのーてんき
第3位:三河ぼてこTMガールズ 第3位:7Dream

第29回 全日本ドッジボール選手権 全国大会



開催日:2019年8月18日
開催場所:茨城県水戸市「アダストリアみとアリーナ」
優 勝:倉敷ブラックファイターズ
準優勝:道塚ドリームウイングス
第3位:6ネズ98 第3位:東淡路タートルキッズ

第6回 全日本女子総合選手権(シニア女子)



開催日:2019年12月1日
開催場所:愛知県豊田市「スカイホール豊田」
優 勝:OVER DRIVE
準優勝:くノ一
第3位:SP-girls 第3位:POWERPUFF G

2019 J.D.B.A 全日本選手権



開催日:2019年10月20日
開催場所:静岡県静岡市「このはなアリーナ」
優 勝:松阪 SC Returns
準優勝:southern'97
第3位:RESPECT 第3位:Feujon

●Asian Dodgeball Championships 2019

	Men	Wemen	Mixed
1位	オーストラリア	マレーシア	オーストラリア
2位	マレーシア	オーストラリア	マレーシア
3位	日本	日本	香港
4位	香港	香港	日本

開催日:開催日:2019年10月26~27日
開催場所:香港

2020年度大会開催予定

●シングルボール

2020年8月16日(日)
第30回全日本ドッジボール選手権全国大会
茨城県水戸市「アダストリアみとアリーナ」
2020年10月4日(日)
2020 J.D.B.A.全日本選手権
福岡県北九州市「北九州市立総合体育館」

2020年12月13日(日)
第7回全日本女子総合選手権全国大会
茨城県水戸市「アダストリアみとアリーナ」
2021年3月28日(日)
第30回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会
石川県金沢市「いしかわ総合スポーツセンター」

●マルチボール(国際大会)

2020年7月16~18日(木~土)
2020 Dodgeball World Cup in Cairo
エジプト・カイロ(会場未公表)



スポーツ振興基金助成事業

公認審判員更新料について

2019年度から公認審判員の更新料が変更になりました。詳しくは同封の「更新のお手続きに関する

お知らせ」をご参照ください。ちなみに、以下の金額は昨年と同額です。

- 公認審判員A級
10,000円(個人会費1,000円+更新料9,000円)
- 公認審判員B級
8,000円(個人会費1,000円+更新料7,000円)
- 公認審判員C級
6,000円(個人会費1,000円+更新料5,000円)

また、資格を複数更新される場合の計算方法をご確認ください。

なお、「更新のお手続きに関するお知らせ」紛失の際の再発行・払込票の再送付は行いません。更新期間内に更新登録が完了できない場合は、資格失効となりますのでご注意ください。

一般・中高生競技者の新規登録も4月1日より開始します。

価格改定について

2019年10月の消費税増税に伴い、協会販売教材・用具などの価格が変わりましたのでお気づきください。

【例】ルールブック:本体価格1,852円+消費税10%で1冊2,037円。

「WDA審判講習会」実施について

2019年8月、世界で普及するマルチボールへの本格参入を目指し、初の「WDA審判講習会」を日本スポーツ振興センターくじ助成の下、茨城県水戸市「アダストリアみとアリーナ」で開催しました。

同時期に発生した香港空港の閉鎖により講師来日不可というハプニングがあったものの、急きょ双方向ビデオ講習会に切り替え、「WDA審判員」の認定となりました。10月には、そのうちの7名がADF香港大会の審判員としてアジアデビュー!マルチボール2017アジア大会、2018世界大会に選手は出場済みでしたが、審判員としては初参加となりました。

また、シングルボールの海外展開に向け、英語をはじめ諸外国語に通じた会員の皆さまのご協力をお願いします。「WDA審判員」の養成企画についても、都道府県協会からのご相談をお待ちしています。なお、普及用ボールの貸し出しは今後検討します。そして、今回の事業を後押しいただいた「totoくじ」をぜひご購入ください。当たればビッグです!



お祝い

当協会監事・山田 上さん、旭日雙光章受章おめでとうございます。ご本業での功績により受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

2020マルチボール日本代表選考開始

2020年7月、エジプト・カイロで開催されるWDAのワールドカップ。その選手選考は1月から始まり、2月に候補が決定と、今後ますますヒートアップ。最終合宿を経て決定する日本代表にご注目ください。皆さまの町から、あるいは皆さまの町へ、今後とも幅広く活動していきます。

※WDAワールドカップの詳細は本紙2~3ページをご参照ください。



このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。



ドッジボールニュース

Vol.10
2020.03

アスリートインタビュー

大舞台で優勝し、ドッジボールへの関心を高めたい



しのはら けんせい

株式会社河合楽器製作所 カワイ体育教室 篠原 謙生さん(22才)

教室に在籍している子も新しく参加した子も、緊張とワクワク感が相まっている様子です。保護者から「体操の時よりも先生がイキイキして楽しそう」などと言われたこともあります。

—これまで代表選手として活躍された大会やその合宿など、一般的な活動の中で印象に残っている場面は?

代表活動で印象に残っているのは、2017年、日本が初めて参加したマルチボールのアジア予選です。ルールの違うドッジボールへの挑戦でしたが、内心、日本の技術があれば優勝できるのではないかと考えていました。しかし、当時のアジア王者・マレーシアには全く歯が立たず、アジア全体でも男子カテゴリー10チーム中4位で、ワールドカップ出場権を得られませんでした。得意なドッジボールでこんなにかなわない相手がいるのかと、とても悔しい思いをしたことは忘れられません。

—今後の目標を教えてください。

目標は、競技ドッジボールという存在を多くの人に認知してもらうことです。そのためにマルチボールのワールドカップという大きな舞台で優勝を目指しています。良い結果を残してメディアに注目されれば、ドッジボールへの関心が高くなるでしょう。また、自分自身をさらに磨き、日本代表を引っ張る存在になれるよう精進します。

上司の千葉事務所 浅野さんからひと言

爽やかで何事にも真摯に取り組む真面目さと、どこかマイペースでおっとりしているところがうまく共存し、どの年代、どんな立場の方にも好印象を与える魅力ある人物です。今後の活躍を期待します。頑張れ!

—まず、カワイ体育教室の概要について教えてください。

河合楽器は1927年の創業ですが、カワイ体育教室も結構歴史が古く、67年に創設されています。子どもたちの心と体の調和を図り、豊かな人生を歩む基礎作りとなる体育・スポーツ教室を目指して、体育教室や新体操、器械体操、サッカーなど、幼児・児童向けの教室*を全国で展開しています。



*2015年3月現在、2,777教室

—ドッジボールを取り入れたのはいつ頃でしょうか。また、そのきっかけは?

私がカワイ体育教室に入社したのは2018年4月で、ドッジボール教室はカワイの「短期教室」の一環で2017年に始めたかと聞いています。その頃はドッジボール教室を短期教室で行う教場は少なく、2019年3月から教場の一部を引き継ぎました。

各教場で短期教室の開催を相談し、内容を定める際は「ドッジボール日本代表」という肩書を活かしながら、投げる、捕る、避けるの基本を習って楽しむことのできるドッジボール教室をしよう、となり、以前よりも多くの教場で開催することができました。

—体育教室の他の種目との違いや特徴はありますか?

ドッジボール教室に参加してくれる子どもには、普段私が体操を教えている子も含まれています。普段の体操とは違った雰囲気で行うので、体育

2020年はドッジボール躍進の年



JDDBA理事長 城門 政文

2020年は、ついに東京オリンピック、パラリンピックイヤーを迎えます。スポーツ界のビッグイベントであり、あらゆるスポーツ団体にとって普及、認知度を上げる千載一遇のチャンスです。日本ドッジボール協会は今年、春・夏の全国小学生大会がそれぞれ30回の節目を迎えます。また10年ほど前より、アジアの国・地域とドッジボール交流を進めています。併せて、数年前からシングルボールに捉われずグローバルな展開を目指している多くの団体との交流を進め、組織の一員として加盟し、2020の世界大会に自力で参加します。より一層、加盟団体との連携を深め、チーム数の増加や人材育成、組織力の強化などを目標に取り組みたい。国内で唯一のドッジボール統括団体として頑張ります。今後ますます関係各位のご理解・ご協力をお願いいたします。

公認球改定について

公認球の改定は、軽量化を図ることによりシニアカテゴリーとの区分を明確にし、成長に応じた段階的な上達を促す目的で実施されます。改定が必要と考えた最も大きな理由は、成長期の小学生選手のけがや身体的負担に対するリスクの軽減です。

主要な球技の中で小学生から大人まで競技用ボールが全く同じという種目はまずありません。ドッジボールの競技特性も併せて考慮した場合、同一の用具の使用は決して好ましい環境であるとは言えないと考えます。

以上のことから、ボールの大きさや競技者の使用感の違いを極力抑えながら、ボールの重量を変えることにより小学生選手の安全面に配慮した公認球の開発に至りました。今後の競技発展のために皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。



一般財団法人日本ドッジボール協会

https://www.dodgeball.or.jp
〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405
TEL.03-5776-1830 FAX.03-5776-1840